



自問教育の会

EOSA Education of Self-Asking

発行日：2018（平成30）年10月20日 No.11

発行者：自問教育の会（会長：小林慎一）

編集：自問教育の会事務局（丸山 斉藤 白澤 吉川 牧 北村 新津 松島 市川 片岡）

事務局：長野県諏訪市清水3丁目3619-3 諏訪市立諏訪中学校内 丸山 博

連絡先：TEL0266-52-0908 FAX0266-52-0917

URL：http://jimon.3zoku.com/

問い合わせ先：http://jimon.3zoku.com/php/sformmail.html

平成29年度 第26回全国自問教育の会 報告

会場：長野県松本市立問中学校，本郷公民館

研究テーマ

「自らを振り返り，成長を実感したり課題や目標を見つけたりしながら，
自らの道徳性を主体的に高めていく体験活動」
～特別の教科道徳の施行に向けて～

第26回の全国自問教育の会は，長野県松本市立会田中学校と松本市内の本郷公民館を会場として開催されました。会田中学校では，全校の清掃の様子を参観しました。公民館では，全国各地より集まった実践者による実践交流会を2日間に渡り行いました。

発表者自身が自らの実践を自問し続けたレポートは，どれも内容の濃いもので，深く語り合い学び合える充実した2日間を過ごすことができました。参加された方からは，どなたからも「来てよかった！」「来年も会いましょう」「実践を続ける力になりました」などの前向きな声が聞かれました。

【1日目】

○清掃参観（松本市立会田中学校）

～本郷公民館へ移動～

○開会行事

開会の挨拶 自問教育の会会長 小林 慎一

○実践発表 長野県立科町立立科小学校 北村 和行

○実践発表 山口県山陽小野田市立厚陽中学校

高下悦子 青木由紀子

○実践情報交換

楠田先生（長野県松本市立女鳥羽中学校）

松島先生（長野県飯田市立高陵中学校）

丸山先生（長野県諏訪市立城南小学校）

【2日目】

○実践発表 栃木県小山市立大谷中学校 飯島 治

○実践発表 東京都世田谷区立桜小学校 渡辺 恵補

○実践情報交換

星野先生（栃木県下野市教育委員会）

白石先生（栃木県小山市教育委員会）

飯田先生（長野県上田市立丸子北小学校）

津田先生・橋本先生（久米中）

福井先生（野々市中）

○実践発表 北相木村立北相木小学校 新津 由紀

○実践発表 機器専門クリーニングパレット社長 日吉 慎一

○実践発表 静岡市立富士見小学校 小笠原寿彦

○実践情報交換

井口先生（湖東小），大道先生（長地小）

○閉会行事

閉会の挨拶 自問教育の会会長 小林 慎一

昨年度の大会の様子



第27回全国自問教育の会 開催決定!

【清掃参観】 長野県松本市立女鳥羽中学校

【実践交流会】 長野県松本市立女鳥羽中学校

【開催日】11月30日(金),12月1日(土)

本年度の大会は、松本市立女鳥羽中学校にて、清掃参観を行った後、自問に関わる道徳の授業を1時間参観します。その後、女鳥羽中学校を引き続きお借りして、授業研究会、実践交流会を2日間にわたって開催する予定です。

《1日目》

- 13:15 受付開始
- 13:35 授業参観
- 14:35 清掃参観
- 15:10 開会行事
- 15:30 授業研究会
- 16:30 実践交流会 I
- 18:30 情報交換会

《2日目》

- 9:00 実践交流会 II
- 12:00 昼食
- 13:00 実践交流会 III
- 14:40 閉会行事



画像をクリックすると松本市のページへジャンプします

大会要項などは、自問教育の会 HP をご覧ください。



自問教育の会 HP

<http://jimon.3zoku.com>

実践の中で

自らを高める自問教育



竹内隆夫先生

の手引き

新たな発想による清掃活動

—人としての成長を願って—

竹内 隆夫 著

<目次>

すいせんの言葉(第4号掲載)

1. 実践の場こそ(第4号掲載)

2. 紆余曲折を経て(第5号掲載)

3. 自由とは迷惑をかけないこと“人の痛みがわかる”(第6号掲載)

4. 心を汲む気働き“人の心がかくめる”(第7号掲載)

5. 創造と発見“人のねうちがわかる”(第8号掲載)

6. 感謝の心で自分との違いか許せる”(第9号掲載)

7. 正直ということ“胸に自分なりの尺度ができる”(第10号掲載)

8. 教師のあり方(第11号掲載)

9. 理念の背景

あとがき

(まとめてお読みになりたい方は、事務局までお問い合わせください)

8 教師のあり方

バーナード・ショーは、「できる人間はする。できぬ人間は教えたがる」と言われましたが、今の学校には、何もかも教えたがる先生が多いように思います。教科書の内容は、誰にもわかるように、もっとていねいに教えてほしいが、生活指導では教えたがらないではしいと思いま

す。おとなは子供に教えるほど立派な生活をしているわけではないからです。それが今は教科書の指導と生活の指導とがあべこべになっています。

学習では教科書に難しい言葉がでてきても、「自分で考えなさい」とか「自分で調べなさい」と言って教えようとしません。だから勉強ざらいや落ちこぼれがふえるのです。反対に人に迷惑をかけてもいない忘れ物や身じたくなど生活

面では、うるさく教えたがります。「遅刻すると門をしめるぞ」と、まるで動物扱いまでしますがります。よくわかる授業をしてくれれば楽しくて遅刻などしなくなります。

ある牧師さんが布教のために家族連れで日本へきました。そしてお子さんを日本の幼稚園へ入れました。この子は大柄で食欲も旺盛でしたから、「がまんができなかったら食べるように」とパンをひときれ持たせました。10時頃おなか为空きましたので、そっと廊下に出てそれを食べました。それを園の先生に叱られたのでした。帰宅するとお父さんに「今日はぼく、誰にも迷惑をかけなかったのに、どうして叱られたかわからない」と言いました。お父さんは、「そうだね。お前は正しかったんだよ」と言われたそうです。

私どもは、とかく人への迷惑行為は見のがしながら、揃って行動ができないと叱るという管理意識が強く指導の合理性が弱いようです。はじめが多くなり、人権問題が思う程進まないのは、私共が迷惑行為に鈍感なせいではないでしょうか。ですから、このプランでは、先生方に迷惑行為以外は一切の指示命令をやめてもらったのです。生徒に向かっては、「皆さんは牛や馬と違い、自発性を備えているんですから人間扱いをしたいのです」と言いました。

多くの先生方は生徒の作業の指示をしたり、督励したりすることに何ら疑問を抱かなかったようです。「それでは私達は何もしないでよいのですか」とか、「怠ける生徒を注意してもいけないのですか」とか、「まじめな生徒をほめてもい

けないのですか」などと、疑問がよせられ、ついに「そんなばかなこと」とおっしゃる先生もありました。特に小学校低学年の、まだ用具の使い方をよく知らない時期の担任からは理解してもらえませんでした。

あらかじめ職員会で意識統一をはからないまま、いきなり全校朝会で提案したので、面くらったようでした。私は何としてもこの15分間だけは迷惑な話し声のない、作業に集中できる場にしたいのです。まじめに働こうとする生徒が居るのに、なぜその生徒を仕事しやすいように守ってあげようとししないのか、その方が疑問でした。

清掃中、先生も含めて、平気で大声を出している人は、迷惑をかけているのですから、早く気づかせたいのです。そこで軽く肩をたたくことにしたのです。たたかれた人は仕事をやめて黙るがまんをしてもらうことにしました。この点がこのプランで理解されにくい点でした。なぜなら、生徒を励まそうとして声をたてておられる先生も、必要な連絡で声を出す生徒も、全くその事に罪意識を感じていないからでした。

マスコミの方からも、「なぜそんなお通夜のよなことを強制するんですか」とか、「なんと管理意識の強い校長なんだろう」などと批判されました。生徒には何も強制はしていないのです。何ら罪意識を感じていないので、邪魔をしないがまんをしてもらおうとしただけなのです。この時間、話し声が消え、静かに働けるようになったのは3カ月たった頃でした。日本に公德心が育たないのは、この迷惑に対する感覚が身に

ついていないからであろうと思うのです。ですからまずこれだけは根気比べが必要だと思いました。そして、これさえ乗り切れれば、後は全く干渉しないで軌道に乗ることのできるプランだと思うのです。

この程度のがまんができないとすればブレーキの無い欠陥車と同じで、これからの国際社会に生きていくことは難しいでしょう。中学生になっても世話がやけるようでは、依頼心から抜け出せないでしょう。もし低学年で雑巾の扱い方を教える必要があるなら、この清掃時間以外で扱ってもらうことにしました。

昔から日本では「ひとつ叱って3つほめ」などと言い、ほめたり叱ったりして導く事は当然と思われています。が、これは幼児期のことであって、自覚ある子供にする段階では当たらないことでしょう。先生にほめられた時はうれしいでしょう。が、次にこの先生が見えればどうなるか。再びほめられようと意識したり、怠けまいとするとと思うのです。また一度叱られると次には叱られまいと構えるでしょう。このように教師を意識するようになればなるほど人の顔色をうかがい消極的になるかもしれません。

先生はまわりの生徒にも知らせる意図で大きな声でほめるのですが、教師の判断が生徒とずれている場合も多いと思うのです。なるべく人を意識しないで、もうひとりの自分に尋ねて自己決定がはかれるような自主的な態度を育てたいものです。他人よりも、もうひとりの自分がよろこぶからうれしくなるという子供にしたい。教師はそれに共感を示す程度がよいでし

ょう。

ほめ、叱ることは不要

またしばしば成績のよいクラスと比べて競争心をあおろうとします。お母さん方の中にも「よし子さんを見習いなさい」などと人と比べて努力させようとしています。このように比較を用いた場合も尺度は外に移ってしまいます。もともと同じクラスにいても生まれは1年間の開きがあるのですから、厳密に言えば同じテスト問題で競争させることも公平でないかもしれません。ましてひとりひとり違う個性を持ち、独自の存在なのです。

発明王となったエジソンは小学校の先生から「頑がくさっている」と言われて3カ月で退学していますし、アインシュタインも小学校の通信簿に、「将来みこみなし」と書かれています。早く進むからよいのでもなく、遅いからと言ってさほど気にすることではないでしょう。ましてこのプランは皆の自問を待って進むのですから、急がせることに意味はないのです。

先生からの圧力が強ければ早く形は整います。が、個々の心が熟したとは言えません。道徳や人生観のことで他のクラスと比べたり競争心をあおるなどは意味のないことでしょう。そう考えると、自主的な生徒にするには、ほめることも、叱ることも、比べることも問題で良策とは言えません。そこで先生方に、教科ではどの子にもわかるまで教え、生徒指導ではほめるな叱るな比べるな、とお願いしました。

この面では子供の心が汲みとれずに見当違いにはめたり叱ったりしやすいものです。「ぼくは

仕事を見つけようとしていたのに、Y先生からぶらぶら遊んでいるんじゃないぞ、と叱られてくやしかった」と不信感を抱いた例もあります。またえこひいきする先生に、「先生、もっとよしお君にもていねいに教えてあげてください」とたしなめられた例もあります。また休む者が多くてさぞたいへんだっただろうと思うと、「今日はいつもよりたっぷり仕事が見つけれられてうれしかった」と感想を述べた生徒もいたのです。また、「ぼくはまさお君に比べたらとてもだめだと思っていたのに、はめられて気持ちが悪かった」というのもありました。

範を示そうなどと肩を張るのはいただけません。もう2段階に進んだら、教えようとしなくて、ただ校舎を愛し続ける方がよいでしょう。信ずることができないから監視しようとするのです。その上愛校心に欠ける底意までも見抜かれてしまうのでしょう。

生徒が、もし先生方の働く様子を批判するようになっては好ましくないと思い、こんなことも話しました。

「先生方の中には夜も皆さんの作品を調べたり、指導の準備でつかれておられる日もあります。ですからこの時間、時には休まれて、お体にさわらないようお願いしています。私もお客さんが見えたりして続けられない日もあるのです

と。そして先生方には、

「もう生徒に任せてできるまでになりましたから、一切生徒を信じて任せましょう。反省文

を書かせることも生徒の負担にならないようにしましょう。生徒の気持ちを作文から見取る必要も無いでしょう。生徒は十分に成長の喜びを感じていますから」

とお話ししました。事実、学年末の文集には自問活動の中からつかみ得た収穫を多くの生徒が綴りました。

また新任の先生が終わりのチャイムで一斉にやめることに疑問を持たれました。小学校は子供を担当が掌握していますから、「あと3分も延ばせば片づくから」と多少の延長はできるでしょう。中学校は後にクラブ活動が続いたりしますから迷惑が及ぶという理由もあります。

だが、子供の感想に、「見つけようとしてやれば仕事はいくらでも続くものであるということがわかった」とあるように、刻々が完成であって、ここで完成という時は無いのだと考えたのせず。

人生に完成が無いように、常に未完成の連続であつてもよいとしたのです。その日その日の区切りをつけることも大切ですが、作業によっては15分は短かすぎてこま切れになる場合も多いでしょう。そこで形よりも心の持続の方に目的を置くことにしました。

後に若い先生から、こんな提案も出されました。「もうどの分担区も生徒に任せられるようになったので、来年からは私達職員が職員室に来て、ここを私達の分担区としようではありませんか」と。

(次号へ続く)

事務局便い

今年の夏は、記録的な猛暑となりました。命の危険すらあるような連日の猛暑にうんざりしていましたが……。そんな7月のある日の放課後、ある生徒が職員室に部活動で必要となる鍵を借りに来ました。その生徒は、大きな声ではっきりと自分のクラスや名前、そして、目的を伝え職員室に入ってきました。

いつもなら、大変素晴らしい態度で何の問題もないどころではなく、賞賛されるべきことですが……。その日は、定期テスト2日目。職員室では採点作業が行われていて、「生徒は立ち入り禁止」の札が職員室入口に貼ってありました。

そのことを職員から伝えられたその生徒は、「あっそうか……。ごめんなさい!!」と言って職員に向かって手を合わせ、職員室から慌てて出ていきました。

まさに咄嗟の言動でしたが、その生徒の間髪入れずに謝る姿に大いに心が揺さぶられました。もちろん、いつかは「申し訳ありません」という言葉が出るようになってほしいと願っているのは教育に携わるものとして当然のことなのですが、それはそれ……。大切なのは、表面的

な言葉ではないのです。必要な時に、素直に謝罪できるまっすぐな心を持っているかどうかだと思のです。猛烈な暑さの中の出来事でしたが、涼やかな風が一瞬吹いたような気がする素敵な出来事でした。

「もっとわかりやすく掲示しておけ！」などと文句を言い、責任を人に擦り付ける生き方をする大人が多い時代になってしまっています。モンスターと呼ばれているあまりにも自己中心的で理不尽な要求を繰り返すクレーマーが、学校だけではなく社会全体の問題になりつつあります。この悲しい現状について、子どもたちに申し訳ないと思っています。何しろ、こういう状況が蔓延していくと、責任を他人に擦り付けている人たちも含め、皆が幸せになれませんから。まず何はともあれ自分の非を認め謝罪ができる心を育てたい。他人をとやかく言う前に自分自身のあり方を問い返す生き方を子どもたちに育てていきたい。いや、せめて、もともと子どもたちに備わっている素直な心を、私たち大人が汚さないように大切にしたい……。そう思います。
(事務局長：丸山博)

《編集後記》

道徳の教科書が小学校で配布され、道徳の教科化が動き出しました。道徳の研究会や学習会には、多くの先生方が参加され、道徳教科化流れに対応しようと試行錯誤されている姿を見るようになりました。自問教育の会では、道徳の時間を行う時には掃除における自分を見つめ書き綴った子どもの作文を使った授業を行います。この授業で語られる子どもの言葉には、自分を見つめ、弱さや課題も含めありのままの自分の姿が映し出されてきます。お互いが自分の心を語り合い、聞き合うことで、友の姿を通し、もう一度自分自身への問い返しが始まります。そして、自分の生きる道を自分で決め、より人として価値のある道を迷いながら歩いていこうとする決意のようなものを作り出していく過程を見ることができるようになります。自ら歩み出す子どもが学級の中に増えていくことで、学級としても大きく成長していく姿に出会えます。

全国各地で実践されている先生方が年に一度集まり、2日間、教育の本質に迫る実践を元に熱く語り合う大会が今年も開催できることとなりました。実践を公開してくださる女鳥羽中学校の先生方に厚く御礼申し上げます。また、全国各地より多くの実践を持ち寄っていただき、教育について熱く語り合う2日間になることを願っています。
(文責：片岡)

